地方議会 監視の輪

■「仕事ぶり、伝わってこない」
傍聴通じ通信簿づくり

地方議会を市民が傍聴し、議員の仕事ぶりをチェックする動きが全国に広がっている。首長に比べて活動が見えにくいうえ、政務調査費の無駄遣いなどで不信感が高まっているためだ。なかには任期中の議会活動を独自に採点し、選挙前に「議員通信簿」を公表するグループもあり、大きな反響を呼んでいる。一方で、議会や議員が活動を自己評価して公表する動きも始まっている。「閉ざされた議会」は変わるのか。

（編集委員・神田誠司）

市議会終了後、意見交換する「相模原市議会をよくする会」のメンバー＝神奈川県相模原市で、徳山喜雄撮影

仙台市議会の傍聴を通じて、議員通信簿づくりを目指す「議会ウオッチャー・仙台」（仮称）が4月にも発足する。準備会の約30人はケヤキ並木の景観保全やオンブズマン活動を通じ、議会の重要さを身にしみて感じてきた人たちだ。

その一人、庫山恒輔さん(62)は「陳情や請願も最後に採否を決めるのは議会。選挙で選んだら終わりでなく、市民の目で議員を日常的にチェックする必要を感じた」と話す。

昨年4月には愛知県の名古屋、春日井、瀬戸、小牧の4市で一斉に「市議会の通信簿をつける会」が誕生。知事選や政務調査費をめぐる活動で知り合った市民が連携して立ち上げた。5月には「議員通信簿連絡会議」を結成した。

同会議の松元保代表(60)は「議員の仕事ぶりがあまりに伝わってこない。ウオッチを通じて有権者に選挙の際の判断材料を提供していきたい」と言う。

■ウオッチ先駆・相模原の団体
活動8年「居眠り減った」

相次いで誕生するこうした団体のモデルになっているのが、今年で10年目を迎える神奈川県の「相模原市議会をよくする会」（71人）だ。

昨年の12月市議会。本会議場の傍聴席に代表の赤倉昭男さん(71)たち数人が陣取り、一般質問のやりとりを克明にメモしていった。本会議だけでなく、五つの常任委員会も手分けして漏らさずウオッチする。結果は年4回発行する会報に載せるほか、市議選前に「議員通信簿」としてまとめ、4千部を配布している。最新版の通信簿＝メモ＝は昨年2月に発行。連絡先として記入した赤倉さんの自宅の電話は発行翌日から鳴りっぱなしだった。「よく読んで選挙の参考にしたい」「私たち市民一人ひとりがもっと議会に関心を持たなければと思った」

1週間ほどの間に通信簿を読んだ市民からの激励や感謝、問い合わせの電話は200本を超え、手紙やファクスも約90通に上った。

会は99年6月、3人の主婦の呼びかけで集まった23人で発足。まず直面したのは議会の閉鎖性だった。審議資料は傍聴者に配布されず、やりとりを聞いても意味が分からない。議会運営委員会も非公開だった。

資料は3年がかりの交渉で配布されるようになった。議運も公開された。少しずつ扉をこじ開けていった。

03年に初めての通信簿を発表。議員の反発は予想以上だった。「これで落選したら訴えるぞ」「議場外での活動が評価されていない」

だが、赤倉さんは「会の一番の柱は不偏不党。評価は最終的にコアメンバー9人の合議で決め、公平な評価に努めてきました」と動じない。8年余りの活動で「ヤジや居眠りはめっきり減った。当初に比べ行政を厳しくチェックする議員も増えた」という。

議員はどう見ているのか。議運委員長の岸浪孝志市議(56)は「公平性に欠けるなどの批判は今もある。だが、傍聴されることで緊張感が生まれ、議会活性化のきっかけになったのは確かだ」。

議会・議員、自ら採点も

傍聴や通信簿づくりが広がる背景に、「閉ざされた議会」の現状がある。個別の議案にどの議員が賛成し、反対したのか。どの質問をだれがしたのか。大半の議会便りは、そんな基本情報さえ掲載されない。

地方議会に詳しい大森彌（わたる）・東大名誉教授は「本来は議会が積極的に公開すべきだ。議員通信簿にしても、役所が事務事業評価を実施するように、議会や議員自らが活動を評価し、市民に判断材料を提供するべきだ」と指摘する。

そんな議会が北海道にある。「日本一開かれた議会」を目指す福島町議会は、05年から議会と議員の評価制度を導入し、ホームページで公開している。

議会は活性度、公開度、住民参加度など10項目をほかの議会などと比較して3段階で評価する。議員評価の参加は任意だが、14人（当時）中8人が実施。財政や福祉など6分野で1年間の目標を設け、その到達度合いを自己評価している。

溝部幸基議長(60)は「第三者評価が理想だが、地方では難しい。甘いと言われるかも知れないが、批判が出ることも大事だ。そこから町民との議論や、議員が活動を見直すきっかけが生まれる」と話す。

北海道・福島町
05年に制度導入 結果はネットに

《相模原市議会をよくする会の議員通信簿》

通信簿は03年6月から06年12月までに開かれた計15回の定例会の本会議、常任委員会での発言や議場での態度をもとに43人の議員を評価している。

「公約編」では一般質問の回数と、公約を実現するための発言が何度あったか、をチェックして6段階で評価。一度も質問しなかった1人は「落第」だった。

議員の資質を問う「観点編」では、質問のために十分な事前調査をしていたか▽行政チェックの姿勢はあったか▽議会改革に積極的か▽居眠りや私語はなかったか――の4項目をA～Dの4段階で評価。オールAが2人いた一方、家族旅行を優先して採決を欠席するなどした1人はオールDの評価だった。

このほかに「市政批判は物足りない」「質問はまた聞きのオンパレード」「地味ながら言うことは言う」など議員全員に総括コメントが付いている。（「相模原市議会をよくする会」のホームページに掲載されている）